

WEP

ウェブ俳句通信

VOL. 69

俳句通信

筑紫磐井100句●「伝統を探究する」

特集●森澄雄全15句集・遺作を読む

森澄雄晩年の句境

第1句集「雪櫻」・第2句集「花散」を読む
 第3句集「浮城」・第4句集「鯉素」を読む
 第5句集「游方」・第6句集「空蟬」を読む
 第7句集「四遊」・第8句集「所生」を読む
 第9句集「餘白」・第10句集「白小」を読む
 第11句集「花畑」・第12句集「天日」を読む
 第13句集「虚心」・第14句集「深泉」を読む
 第15句集「蒼茫」・「蒼茫」以後を読む
 森澄雄200句

森 潮

原けんじ
 岩井英雅
 矢野景一
 田中俊廣
 田代素人
 湊 淑子
 小林鱒一
 藤村克明
 森 潮道

【特別作品25句】

関口恭代「夏至の風」

【特別寄稿60句】

西池冬扇「阿波之國」

【短期集中連載①・新作30句】

柳生正名「水眠く」

【鑑賞】

関口恭代第7句集「永遠」を読む
 小宅容義・下鉢清子・関口恭代



●作品●

田中水桜・猪俣千代子・下鉢清子・
 神蔵 器・百瀬美津・鈴木鷹夫・
 金久美智子・加藤耕子・中原道夫・
 木田千女・大高露海・美柑みつはる・
 橋本榮治・佐怒賀正美・
 津川絵理子ほか

●批評エッセイ●

新連載・根柢を求めて「根柢とその父」神田ひろみ
 先人に学ぶ俳句「阿波野青歌(3)」岸本尚毅
 戦後の俳人たち「能村登四郎」松岡ひでたか
 虚子の肖像「虚子にとっての俳句とは」坊城俊樹
 飯田龍太は森である「最後の句集」清水青風
 智子の素粒子「弓道場」品川鈴子

夏の新宿御苑

関口恭代



冷奴水を自慢に出されたり

野村喜舟

水

国道144号線を婦恋村役場の先でバラギ湖方面に右折、しばらく進んだ道ぞいに湧き水がある。ここは群馬・長野県境にある四阿山の東麓、婦恋村干俣（ほしまた）。以前から水を汲む人をよく見かけたので、湧き水があることは知っていた。看板のたぐいは見当たらないが、地元では結構知られているようだ。

婦恋村の水の評判は聞いていたが、実際、小屋に引いてある水道の水は夏場でも冷たく実においしい。塩素の臭みなどまったくないのである。小屋での晩酌にウイスキーの「水道水割り」を欠かしたことがない。つまみにはやはり干俣の豆腐を冷奴でいただく。これがまたいい。やはり水のおかげかも知れない。

さて、さいたま市にある自宅の近所のスーパーに干俣の水があるのを最近見かけた。2リットル入りのペットボトルには「超軟水」とあった。



夏至の風

関口恭代

新宿御苑 五句

思ひきり枝交はす樹木みなみ東風

咲き残る菖蒲や猫のうづくまる

湿り香を好むきくらげ木下闇

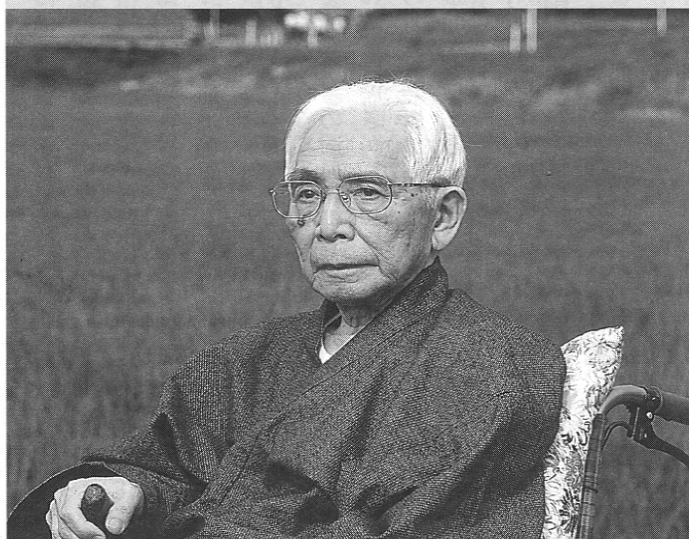
ひと叢は月のしづくの姫女苑

名を知らぬ花に頬よせ涼しかり

遠藤千代を悼む 三句

あつけなき訣れありけり梅雨夕焼





この8月18日に森澄雄氏の3周忌を迎えます。これを機に澄雄氏が遺した全15句集（ウェブ刊のヴィジュアル句集『遊心』を除く）と遺作を改めて読んでみることにし、7人の方に2句集ずつ、1人の方に最後の句集と遺作の鑑賞をして頂きました。

また澄雄氏晩年の句について森潮氏に書いて頂き、さらに澄雄氏の生涯の句の中から200句を選んで頂きました。

※掲載句の表記は一部を除き常用漢字、ふりがなは新かなで統一しました。

特集

森澄雄全15句集・遺作を読む